

# Mercedes-Benz

## 420SEL/560SEL



プレステージカー

メルセデス・ベンツの考える高級乗用車を表現したのが

このSクラスであります。

エクゼクティブの世界には、ビジネスや家族の豊かなライフを創造  
すべく自ずとそれにふさわしい格の服装、<sup>ファッション レジデンス</sup>邸宅、<sup>ファニチャー</sup>それに家具がそな  
わって豊かなライフを演出しています。

メルセデス・ベンツは高級乗用車には威厳、装い、それに重厚な落  
着きを備えているべきであると考えています。

即ち、エクゼクティブが最も必要な要素を集積した高級乗用車の条  
件にジャスト・フィットしたのが、メルセデスSクラスなのです。

メルセデス伝統のラジエーターグリルは、もう申すまでもなく押し  
も押されぬ高級乗用車の象徴となっています。

Sクラスのボデーは繊細な手直しを受けて、一層エレガントに仕上  
げられました。しかし、基本構造もスタイリングも変更したわけ  
ではありません。充分に前後フェンダーラインをしほり込んだロング  
ホイールベースの4ドアサルーンとしては、エアロダイナミクス  
なボデーラインでCd値は0.35にも達しています。

この値を得ながら、居住性も安全のための視界度も少しも犠牲には  
していません。

420SELはV8 OHC 4,195cc、圧縮比9.0:1 ポツシュKEジ  
エトロニック 最高出力210ps/5,200rpm、最大トルク40.6mkg/  
3,500rpm(無鉛/ハイオク仕様)を搭載、4速トルコンオートマチック  
トランスミッションと組合せています。

560SELはV8 OHC 5,546cc、圧縮比9.0:1 ポツシュKEジ  
エトロニック 最高出力245ps/4,800rpm、最大トルク40.6mkg/  
3,500rpm(無鉛/ハイオク仕様)を搭載、4速トルコンオートマチック  
トランスミッションと組合せています。



## また一層艶が出たSクラスのスタイリング。

ダイナミックなパワーをプラスして生れ変わったSクラスは、同時にスタイリングの上でもまた一歩踏み出しています。

即ち、そのエレガントなスタイリングはダイナミックなパワーに合わせた手直しが施されています。

ポテシエルは基本的に変わりませんが、フロントのエプロンはポリウムをアップしてSクラスの“顔”は一層力強く、堂々たる風格に仕上げられました。

ポテサイドのプロテクターは、これまでの細い溝の入ったデザインから滑らかな面の仕上げに改められると同時に、ポテサイド下部もスポイラー形状に直しました。

バンパーとスポイラーはグラスファイバーで補強されたポリウレタンフォーム製で弾力性に富み、軽度のショックなら自動的に元の形にもどります。

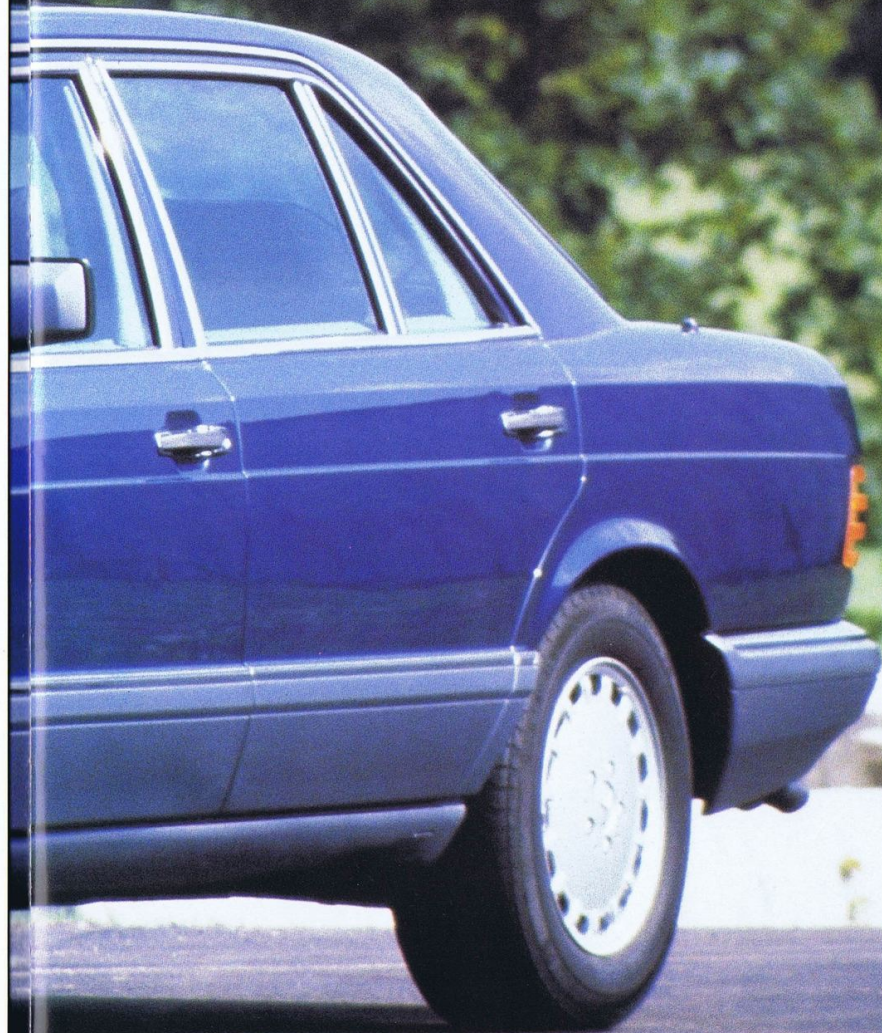
(前後バンパーシステムは固定障害物に時速約4 km/hで衝突した後でもすぐに回復します。)

バンパーとプロテクターパネルは4色のメタリックカラーが用意されており(従来は3色)、これまで以上にポテカラーとのマッチングが良くなっています。

このような設計変更によりSクラスのポテは、よりスマートに、一層艶やかに装っています。

また、空力学的にも前部の揚力を抑え、後部のエアフローを改善することに成功しています。

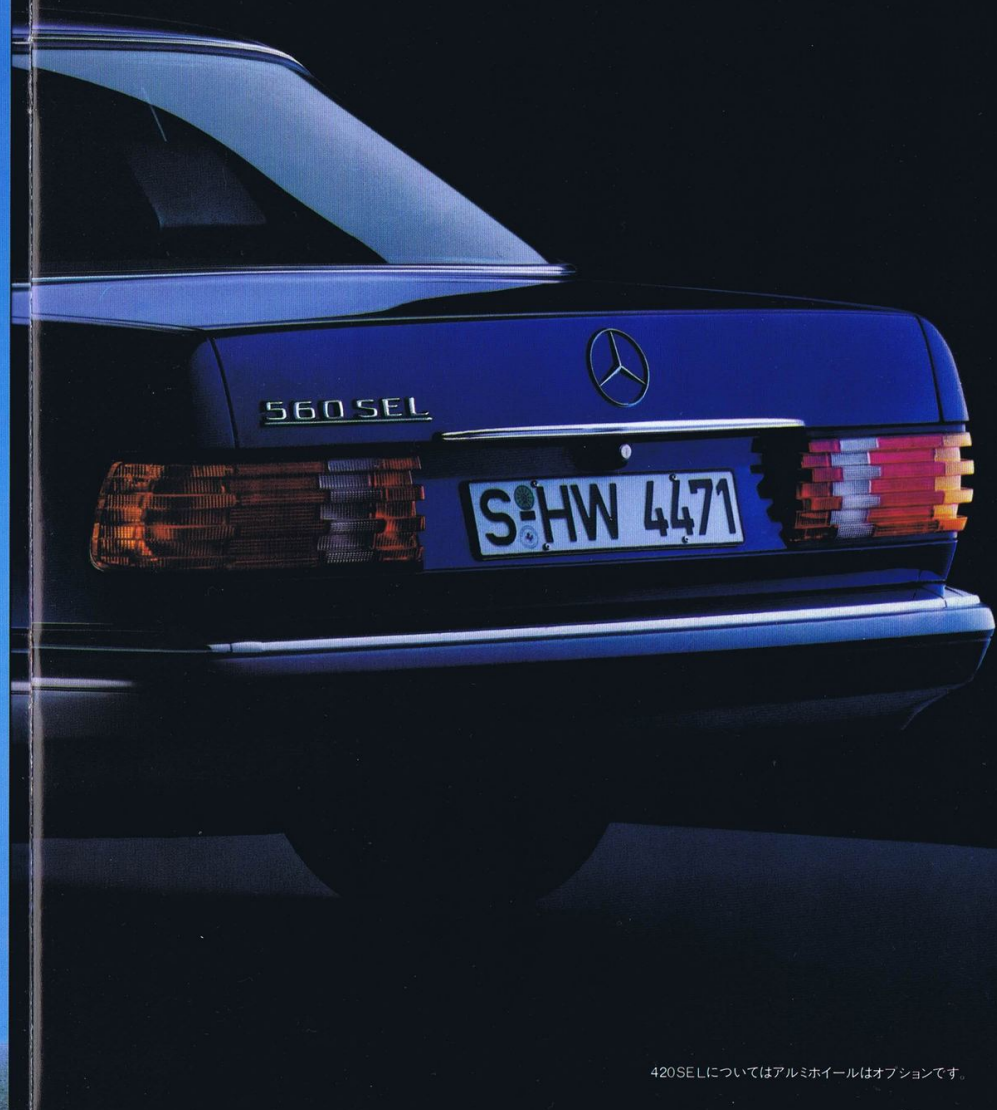
例えば、実験試作車として有名になったメルセデスC-111スポーツエキスペリメンタルカーのCd値はわずか0.2。我々は一般的量産モデルの到達できる限界はCd値0.3と思っていますが、SクラスはCd値0.35という極めて低い空気抵抗係数を示しています。







420SELについてはアルミホイール、ヘッドライトワイパーはオプションです。



420SELについてはアルミホイールはオプションです。





## セーフティカーの基本はシャーシ造りにあり。

安全な自動車を造るには、先ず基本のフレームを頑丈に造る必要があります。

メルセデスの場合、堅牢なフロアフレームユニットとサブフレーム、そしてセミモノコックボデー構造の組合せにより、極めて高いフレーム剛性を得ています。完全な基礎造りを果たした後ホイール、サスペンション等ランニングギアのレイアウトを定めて行きます。

Sクラスの場合、ロングなホイールベースとワイドなトレッドにより、先ず基本のシャーシと路面コンタクトのバランスが位置ぎめされました。

フロントのサスペンションは、独自に改良したダブルウィッシュユボーンとトーションスタビライザーのコンビネーションによりレイアウトはスペースを存分にセーブし、コイルスプリングの直径はなるべく大きく採り、ガス封入式ショックアブソーバ

のストロークを長く、余裕をもってセッティングしました。リアサスペンションはU字型サブフレームを介したセミトレーリングアームとコイル及びテレスコピック・ショックアブソーバユニットにトーションバーを組み込んだ全独立式。フロントにはアンチノーズダイブ、ゼロオフセットのステアリングジオメトリーをセッティングしてあります。メルセデス・ベンツが開発したパワーステアリングは必要な時におき、パワーステアリングを導入する方式のいわゆる入力感応式です。

420SELについてはアルミホイール、ヘッドライトワイパーはオプションです。

この方式は、ドライバーのハンドルを回す力を計測してアシスト量を定めるので、直進等必要のない時にはアシストは与えられません。そして、メルセデスの伝統であらゆるスピード時にも優れた路面感覚を伝えます。

メルセデスのグッドハンドリングの秘密はここにあるのです。ブレーキは2系統式のパワー4輪ディスク・ブレーキシステムを採用。タイヤはアスペクトレシオ65%の205/65 R15、ホイールキャップはファイバーグラス強化のポリアミド製でクローム仕上げのスターを飾っています。

## 機能的なデザインこそ 安全性の根本です。

メルセデスのインテリアの特徴は、先ず優れた視界を得ること、そして必要情報を確実に得、落ち着いて対処できるドライバーズ・ポジションを確保することにあります。

例えば、ダッシュボードやセンターコンソールの形状がコックピットタイプになっているとしたならば、それらのデザインや計器類の働きに目をうばわれて、肝心の車外の交通状況を的確につかむことができずしてはどうか。我々のレイアウトは必要な時に必要な計器やスイッチ類に自然に手や目とどくように心掛けたものです。

このような思想がセーフティデザインのベシクに流れているのです。

最適な長距離走行を果すためにも設計、レイアウトには最善がつけられています。

シートはそのサイズに十分な余裕を身体で感じられることが必要で、快適かつ安全にサイドサポートをつけてあります。

フロントシート用のヘッドレストは、リクライニング用のハンドホイールを併用して、楽に高さの調節ができます。

エンジンオイル、冷却水、ウォッシュ液の状況及びヘッドライト等の灯火類、ウォーニング・インディケータ・ゲータークラスター下側のベルトライン上に並べられています。

ウィンドシールドウォッシュ液は、ノズルがヒーター式であります。

セントラルロックは前ドアとトランクからロック開閉が可能です。





## 静かに安らぎを味わえる リア コンパートメント。

さすがにSクラスの重厚なインテリアムードには、高級車のスタンダードとなるようなステータスを感じられます。デザインのみならず、これには内張りの材質と質感の高さ等がムードの向上に大きく貢献して居ります。ロングツーリングには、リラックスできる余裕の空間をおしみなく提供し、優れたベンチレーションシステムにより常に爽快にすごせることが第1の目標とされています。

メルセデスのインテリアに座って、じっくりと落ち着けるその秘密は、最適にコーディネートされたインテリアのカラーリング、そしてあくまでも安全性を重視したデザインのかもし出すムードが如何にもすっきりとくせがないので、パッセンジャーに決してあきられることがないということにあります。標準のシート生地は、上質のペロアですが、オプションで本革張りも選択することができます。

# 半世紀を安全性の研究に 投じて来ました。

メルセデスのセーフティシステムは、もう既に50年もの歴史を誇ります。(同社は1986年に100周年を迎えます。)

セーフティシステムを語るには、まず、事故を起こさないための能動的な安全性を挙げなければなりません。

これは、Sクラスの走る、曲る、止るといった基本的な要素が如何にしっかりしているかどうかで判断していただけたらと思います。

シャープでなめらかな加速を示す豊かなトルクをもったエンジンとそれを理想的にコントロールするトランスミッションにはじまる、たくましいリフトレイン。一方、その実力を存分に発揮させるために念入りにチューニングを施した独自のシャーシ造りが生かされてこそ、真の安全性が実現することになります。

その結果、如何なるトラフィックの事情のもとでもSクラスの室内ムードは重厚な落ち着いたムードに包まれています。

これぞ、高級乗用車の冠たるメルセデスSクラスの貴録に他なりません。

いくら自分が注意しても安全が絶対に守れるとはきまってはいたのです。従って、全メルセデスの安全対策の2つ目のポイントとして受動的な安全性が挙げられています。

“受動”即ち、受け身であります。

これは多くのスポーツにもあるように、くるま自身の身を挺してショックを柔らげる手段です。

メルセデスはこの受け身をいち早くボデー構造にとり入れたのが、1951年のことです。

今日、Sクラスのボデー構造は部分的に頑丈であり、また部分的に大いに弾力性をもって造られています。

このボデーは、フロントを3つのゾーンに分けて変形し、徐々に衝撃を吸収する仕組みになっています。

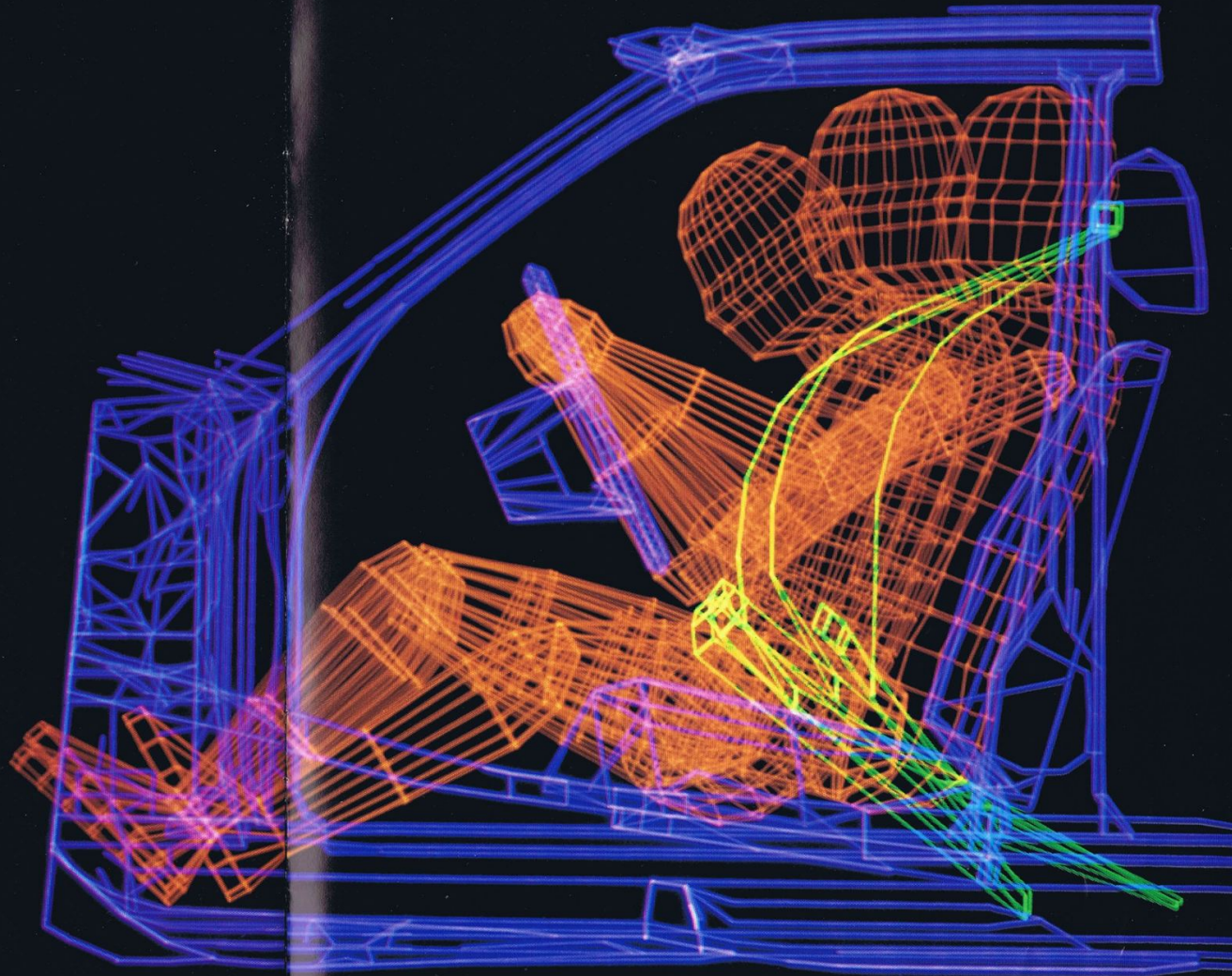
まず、最初のクラッシュアブルゾーンは容易に変形して、相手側の車に対する衝撃力も吸収してしまいます。この部分は、おしる積極的に縮ませるように造られています。

第2のゾーンはエンジン部で、こゝはあまり容易に変形し難く、頑丈な造りになっています。

更に、第3のゾーンは、パッセンジャーセル(即ち客室)で特に頑丈にプロテクトしてあります。

例えば、ルーフピラーはルーフのフロント部と一体化されて転倒時の剛性を高めています。ピラーは内部を中空の構造にして強化されています。

ドアフレーム、ドア、ヒンジ及びロックは相互に防護壁を形成しており、横からの衝撃の際には、ドアが深く侵入し、室内が圧迫されるのを防いでいます。



## 総アルミV8エンジン

メルセデスのV8エンジンは、4.2ℓ・210psと5.6ℓ・245psの2種類をこのロングホイールベース版SELに搭載しています。アルミニウム製のエンジンは世界中を見渡せば新しいことではありませんが、これほどアルミ材質を広く使ったことはめずらしいことなのです。

メリットとしては、まず、重量を軽減できるばかりでなく、安定した性能と耐久性を確保するために必要条件である優れた熱特性を示します。

このエンジンは、スチール製のシリンダーライナーを使ってなく、ピストンはアルミニウムのシリンダー壁と直接触れています。このアルミニウム壁にはシリコン結晶が含まれています。ピストンはこのシリコン結晶によって、安全に、スムーズに動き、耐摩耗性を高くしています。

Vフォーメーションの8気筒エンジンは、優れたクランクシャフトのバランスにより、アイドリングに、またフルスロットル時にも極めて静かで振動の少ない回転を約束されています。

特に、中回転数域でこのV8エンジンは存分なパワーを引出せ、またフレキシビリティに富んだ性格に仕上げられています。

V8らしいワフワフなイメージに加えて、すべてに余裕をもったこのエンジン造りだからこそ高級車らしいゴージャスな走りが味わえるのです。

### メルセデス独自のシフトパターンが軽快で安全な操作性を実現した4速オートマチックトランスミッション。

ジグザグの6ポジションのA/Tシフトパターンがメルセデス独自のセーフティコンセプトを表現した代表作といわれています。

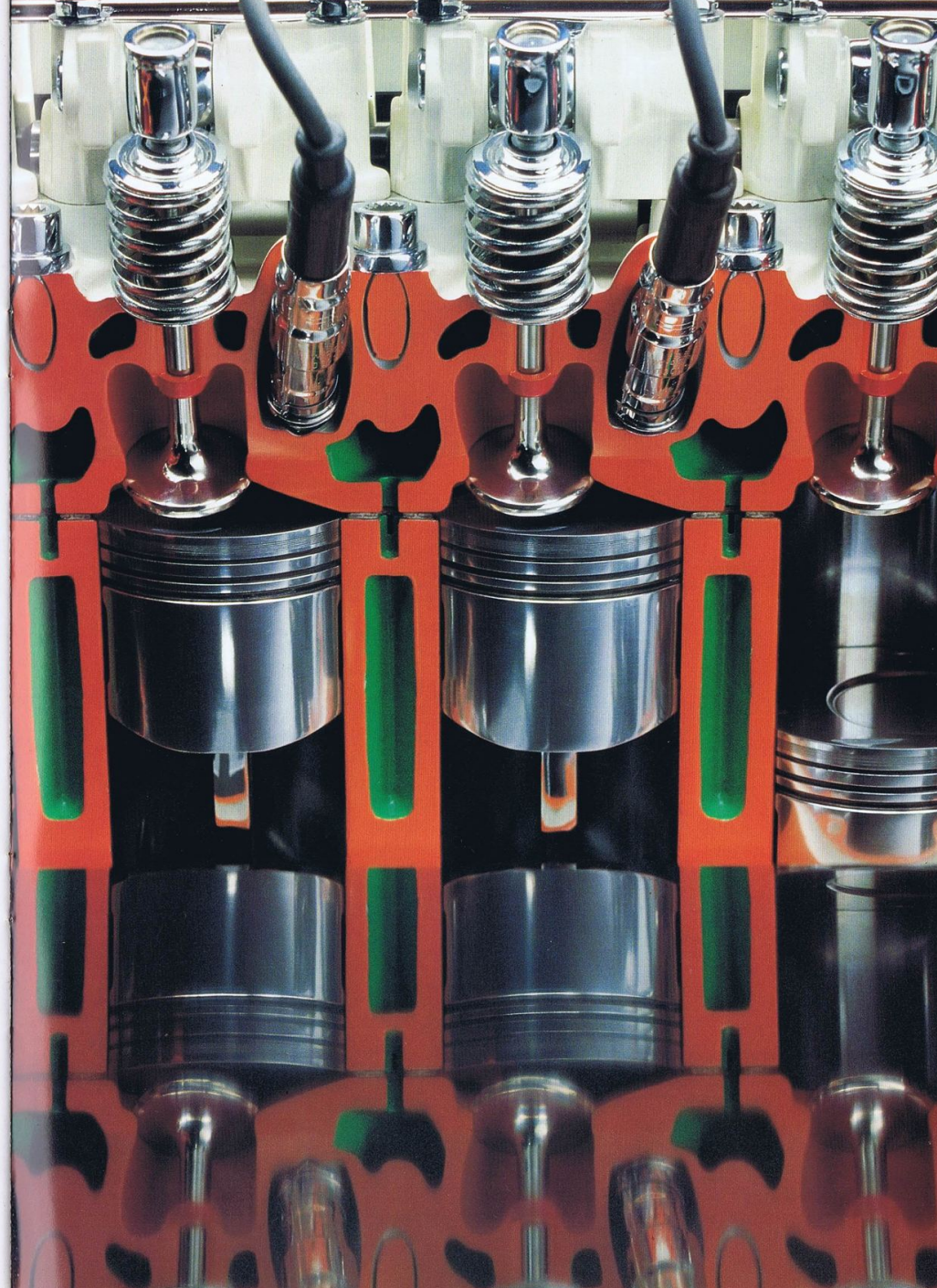
正に、スナップで軽快にシフトができ、わかり易く容易に操作できるということ自体が、まず、操作安全性に通じるのです。

オートマチックトランスミッションは、より軽量化されていますが、その性能は向上し、ギアシフトの機能性、正確性、スムーズさ等は一層向上しています。

例えば、Dポジションで車が止っている時には、トランスミッションのギアは2速でアイドリングしています。

しかし、アクセルペダルを踏むとギアが1速に入りますので(即ち、常に1速からスタートする)すばらしい加速を生み出します。

このオートマチックトランスミッションは、Dポジションにおいて低負荷の時には、早いタイミングでシフトアップします。従って、エンジン回転数は低く保たれ、常に燃料を節約します。



## 7年間の開発と100年の経験

S-クラスは生産ラインから初めて出て行く前にはすでに完成されています。何故なら、その前に、S-クラスはパイロットプロダクションライン（仮生産ライン）ですでにテストされているからです。この点、車の組み立ては、仕事を完全にマスターするまで、すべてのパーツが適合するまで実践に沿ってテストされます。その時、はじめて最終的に本生産に移されます。

実践において、S-クラスに受け入れられるすべてのものは100年の経験に基づいています。7年間の開発期間、数々の試作やテスト。繰り返して行なわれる各部の試験。

S-クラスでは、実走行では考えられない程の条件の下で、300万km以上に及ぶテストが行なわれました。冷凍室において、エンジンや他のパーツは-40℃にまで耐え、そして問題なく稼働致しました。

同様に、熱帯地域の温度においても実証されました。

又、ベンチテストによっても耐久性を完璧に追求しています。人間の限界を超えるこのような過酷なテストは機械によって行なわれているのです。

## 耐久性

耐久性の一例は錆保護剤、錆にくいアルミニウム及びプラスチックの採用です。フロント・フェンダー裏側には、プラスチックライナーが取り付けられ、塩や飛石に対して保護しています。飛石によるダメージを受け易いフロントセクションには、保護塗装が施されています。

フロア下側は軽量ですが、耐久性のある材質で保護されています。

後から手を入れられない部分は、粘着性の良いワックスでコーティングされ、このワックスはなめらかな特性をもっています。

## アフターサービスによる安全性

すべて可能な限りの技術を駆使することによって、メルセデス・ベンツはより信頼性が高く、よりメンテナンスが楽になっています。又、修理代も節約できます。

例えば、バッテリー、ブレーキマスターシリンダー、リレー、ヒューズ等はエンジンルーム内の仕切られたコンパートメントに格納され、守られています。

オイルフィルター、全ライトのバルブ、ブレーキブースター、ヒーターシステム、そしてホース類は特に手が届き易く、簡単に交換することができます。

個々に修理ができ、費用が節約できます。特にそれはフロント部分で、フロントのフェンダーはボルト締めされています。ルーフの縦形の溝は、再塗装の手間を省いています。

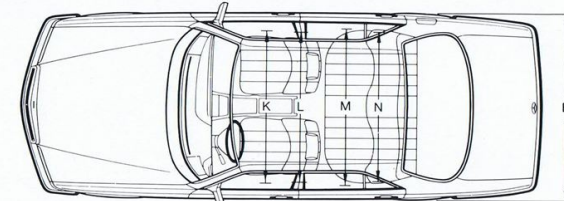
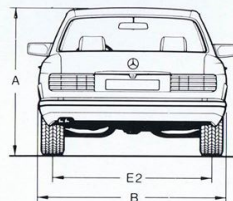
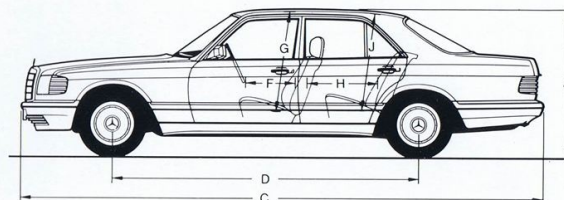
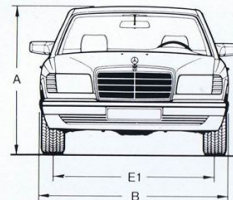
熟練したエンジニアによるサービス体制によって、メルセデス・ベンツの経済性や信頼性を保証しています。



420SELについてはアルミホイール、ヘッドライトワイパーはオプションです。

## 420SEL/560SEL

## Technical Data



	420SEL	560SEL
車両型式	E-126035	E-126039
エンジン種類	OHC メカニカル/電子燃料噴射式	
気筒数	V-8	V-8
ボア/ストローク (mm)	92.0×78.9	96.5×94.8
総排気量 (cc)	4,195	5,546
圧縮比	9.0	9.0
最高出力 (DIN PS/rpm)	210/5,200	245/4,800
最大トルク (DIN kgm/rpm)	32.3/3,600	40.6/3,500
登坂能力		
乗車定員 (人)	5	5
燃料タンク容量 (ℓ)	90	90
車両重量 (kg)	1,690	1,770
タイヤサイズ	205/65 VR15	205/65 VR15
使用燃料	無鉛ハイオクタン	無鉛ハイオクタン

	420SEL	560SEL
A 全高 (mm)	1,440	1,445
B 全巾 (mm)	1,820	1,820
C 全長 (mm)	5,160	5,160
D ホイールベース (mm)	3,075	3,070
E1 トレッド フロント (mm)	1,555	1,555
E2 * リア (mm)	1,525	1,525
F ステアリングホイールドライブシート間 (mm)	477	474
G 前シート高さ (mm)	981	981
H ドライブシート〜リヤシート間 (mm)	844	841
J 後シート高さ (mm)	944	944
K 前室巾 (mm)	1,432	1,420
L 前シート (ショルダー高さ) 巾 (mm)	1,428	1,428
M 後室巾 (mm)	1,468	1,462
N 後シート (ショルダー高さ) 巾 (mm)	1,416	1,416
最小回転半径 (m)	5.8	5.8
トランクスペース (ℓ)	約 505	約 505
最低地上高 (mm)	160	160

## 420SEL/560SEL主要装備

	420SEL	560SEL
●シャシー		
ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)	○	○
レベルアジャストメント	—	○
クルーズコントロール	○	○
リミテッドスリップテフ	—	○
●ボディ		
電動ミラー (助手席側) / 熱線入りセントラルロックシステム	○	○
パワーウィンドウ	○	○
アルミホイール	△	○
スタンダード/メタリック・ペイント	○	○
ヘッドライト・ワイパー	△	○
AM/FMカセットラジオ、4スピーカー	○	○
カセットラジオ・リモートコントローラー	○	—

○…標準装備 △…注文装備 ○…取付不能

	420SEL	560SEL
●インテリア		
シート/内張り: ベロア	△	○
シート/内張り: 本革	○	○
オートマチック・クラレグメート・コントロール	○	○
パワーシート (前・後席)	○	○
セーフティベルト 5席	○	○
アームレスト (前・後席)	○	○
ベッドレスト 4席	○	○
リーディングライト	○	○
乗降用足元ライト	○	○
本革巻きステアリング/シフトノブ	—	○
テレスコピック・ステアリング	—	○
ポップアップ式電動スライディングルーフ	△	○
外気温度計	○	○

メルセデス・ベンツは世界各国に輸出されております。その為交通法規や細かい仕様の規定が各国によって異なっています。日本では発売する場合、日本の保安基準に適合する様必要改善事項を実施しております。このカタログのカラー写真は西ドイツで撮影されたもので、このカタログと実車は、若干相違がありますのでご了承下さい。

\*諸元および写真の一部、または全てを改良のため予告なく変更することがあります。また、運輸免許の諸元に記載されるものと異なるものもあります。



Mercedes-Benz.

good new days

入替が早い新しいお車も

**ヤナセ**

総輸入元

ウエスタン自動車株式会社

東京都港区文庫一丁目6番42号F05

電話 東京 (03)432-1471(大代表)